

厚岸町海事記念館通信

発行 厚岸町海事記念館

〒088-1151 厚岸町真栄3丁目4番地

TEL & FAX 0153-52-4040

<http://www.town.akkeshi.hokkaido.jp/kaiji>

No.38

2013年3月発行

厚岸かぐら同好会が北海道地域文化選奨特別賞を受賞!!

すでにご存じの方もいらっしゃると思いますが、昨年12月に、厚岸かぐら同好会(会長畠山竹土)が北海道知事より北海道地域文化選奨の特別賞をいただきました。この賞は、地域に根ざした活発な文化活動または文化支援を行い、地域文化の振興に貢献している個人や団体等に対して、その活動を顕彰するものです。今回の厚岸かぐら同好会の受賞は、長年の伝承活動の取り組みと、地元小学校を主体とした厚岸かぐら少年団を結成し、次代の担い手育成にも積極的に取り組んでいる点などが評価されました。

去る2月17日(日)には、空知管内の美唄市において、アルテピアッツァ美唄(廃校を再活用した彫刻公園)を会場に授賞式が開催されました。

式当日は、北海道地域文化選奨を受賞した特定非営利活動法人アルテピアッツァびばい(美唄市)と厚岸かぐら同好会と同じく特別賞を受賞した置戸町商工会青年部(置戸町)の受賞3団体が表彰を受け、多田健一郎北海道副知事より賞状と副賞の盾をいただきました。厚岸かぐら同好会からは畠山会長が出席し、式の後半では同好会の活動報告を行い、来場者の関心を集めていました。

今回の受賞をとおして、多くの人に地域の歴史である「厚岸かぐら」を知っていただければ幸いです。また、厚岸かぐら同好会の後世に向けた伝承活動の更なる飛躍をご祈念申し上げます。



写真前列右より、厚岸かぐら同好会(畠山会長)、置戸町商工会青年部、特定非営利活動法人アルテピアッツァびばい

厚岸かぐらの授業を実施しました!!



例年恒例となりました、厚岸かぐらの授業が厚岸町立真龍小学校で行われ、2月22日(金)の授業参観日には、保護者の皆さんの前で、練習の成果を披露しました。この取り組みは、伝承校である真龍小学校3年生の総合学習の時間を利用して、厚岸町の無形文化財にも指定されている「厚岸かぐら」を学習するものです。児童たちは、厚岸かぐら同好会のみなさんの指導のもと、約2ヶ月間、練習に励んで来ました。

発表当日は、児童が大きな輪を作って踊る「助六舞」と三人一組で飛んだりはねたり、くぐったりしながら踊る「三本とうじ」を披露しました。総勢約60人での踊りは圧巻でした。一生懸命、練習した成果が遺憾なく発揮され、その上達ぶりに脱帽でした。

「平成24年度文化財歴史教室」を開催します

3月20日(水)文化財歴史教室を開催します。学芸員が日頃調査・研究している結果を発表いたします。皆さまのご参加お待ちしております。

- 日 時:3月20日(水)午前10時～12時
- 内 容:◆「厚岸町における石造物調査事始め」(車塚洋文化財係長)
(厚岸町内には石碑や石造仏、記念碑など、多くの石造物が存在します。普段は見過ごされがちな石造物をとおして、厚岸の歴史を再発見します。)
◆「幕末の厚岸～諸資料からみる仙台藩領期」(菅原卓己学芸員)
(『日鑑記』や『儀右衛門日記』などの文献資料の記載から、厚岸が仙台藩の領地であった時のこととお話します。)
- 場 所:海事記念館1階ホール
- 定 員:50名
- 参 加 料:無料
- 申込締切 :3月15日(金)
- 申込・問合わせ :海事記念館 0153-52-4040



幕末の厚岸～会津藩との関係について

1月から新しい大河ドラマ「八重の桜」が始まりました。それに伴い、主人公の山本八重の出身である会津藩がテレビなどでよくとりあげられるようになりました。会津藩と北海道は関係は深く、古くは文化年間に樺太などの警備を担当したり、明治には札幌や余市に入植したりしていることが知られていますが、実は蝦夷地の一部が会津藩の領地だったことがあるのです。それは安政6年(1859)から明治元年(1868)までで、領地となったのは「根室西別から網走境まで」(現在の別海町・標津町・斜里町など)と「網走境から紋別境まで」(現在の紋別市など)で、標津などに陣屋も築いていました。蝦夷地に来た藩士の中には、秋月悌次郎や南摩綱紀など有名な人物もいました。厚岸は会津藩領ではありませんでしたが、厚岸を經由し、その際国泰寺に立ち寄っていたことが日鑑記に書かれています。また、蝦夷地に来た会津藩士の中で亡くなった者もあり、位牌が同寺にあり、野付半島にお墓も残っています。

その他に、元会津藩家老である梶原平馬のお墓も根室にあるなど、実は厚岸を含む道東と会津の関係は深いのです。そんなことを考えつつ、大河ドラマを見ると、いっそう楽しめるのではないのでしょうか。

*会津藩と厚岸の関係については、先月発売となりました「厚岸町史通史編」(p976～978)に詳しく書かれていますので、機会があればご覧ください。



野付半島にある会津藩士の墓



羽峰(南摩綱紀)作「伝蔵の帰省を送る詩」 (別海町加賀家文書館所蔵)

これは根室場所や標津場所などで通辞として働いていた加賀伝蔵が、故郷八森(秋田県八峰町)に帰ることになった際、代官として勤務していた南摩綱紀より贈られた詩です。

*画像提供・・別海町加賀家文書館